

宮崎県産業教育審議会答申「新たな時代を切り拓く産業教育の在り方」について【概要版】

諮問理由

新しい時代の要請に応じ、産業界・教育界のパラダイムシフトに対応する必要があるため、本県産業教育の現状と課題について共通認識と対応策を整理し、VUCAの時代に対応できる新しい産業教育の在り方を検討する必要がある。

産業教育の現状と課題

現状

- ・専門学科の設置校について、全日制では農業科6校、工業科7校、商業科8校、水産科1校、家庭科6校、福祉科4校であり、定時制では、工業科1校、商業科3校である。
- ・専門学科と普通科の設置比率は全国平均（約3:7）に比べ約5:5と高い。
- ・工業科と水産科では就職希望者が多く、また県外への就職比率が高い。その他の学科は就職者と進学者の比率は約半々で、学校によっては進学者が上回っている状況がある。

課題

- ・人口減少に伴う高校入試低倍率が続いている学校がある。
- ・学習目標や内容が分かりづらく魅力が伝わりにくい学科名がある。
- ・教員の専門性や技術継承、先端技術への対応に課題がある。
- ・産業界と教育界の連携を行う上で、教員のコーディネート力やファシリテーション力等の向上が求められる。

VUCAの時代に対応できる力を身につけるための産業教育の在り方

①産業界が求める人材

- ・専門知識を基盤としながらも、考える力、向上心、適応力、柔軟性、忍耐力を兼ね備えている
- ・職業人としての成長を支えるコミュニケーション力、情報収集力、提案力、創造力を持っている
- ・AIの利活用など、高度なデジタルスキルを持っている
- ・スペシャリストでありながら、総合的な視野を持つジェネラリストの資質をもっている

②地域社会に貢献する人材の育成

- ・地域課題の気づきから解決策を考え実践する経験が重要である

（求められる手段）

- ・行政・産業界・地域との連携を強化
- ・キャリア教育コーディネーターとの連携強化
- ・課題解決型の学びを導入
- ・教員のスキルアップ

宮崎県を牽引する職業人に求められる資質能力の育成

①創造力や探究的能力

- ・生徒が自ら情報収集・課題設定できる仕組み作りが重要
- ・継続的な「総合的な探究の時間」や「課題研究」の実践
- ・外部講師の積極的な活用
- ・金融経済教育の実践（「儲ける力」「稼ぐ力」の育成）

②デジタル機器の利活用とデジタルスキル

- ・社会実装を意識した実践的な学びを導入する
- ・インターンシップ、企業見学、デュアル教育システムを通して企業のDXの状況を理解する
- ・遠隔・通信教育を積極的に活用する

③グローバルな視点を持つリーダー

- ・オンラインを含めた積極的な国際交流の実現
- ・外国人労働者や外国人観光客、移住者との交流

宮崎県ならではの魅力ある学校（学科）のブランディング

①教育プログラムとカリキュラム・マネジメントの検討

- ・従来の枠にとらわれない柔軟な教育プログラムの実践
- ・専門分野の深化と分野連携による学びを視野に入れた柔軟なカリキュラムの構築
- ・関連する様々な学科の教科や科目が選べるカリキュラムの設定
- ・「社会に開かれた教育課程」の理念を踏まえ、学校・行政・産業界・地域が一体となり学びの枠組を共創する体制の整備

②学校や学科の垣根を越えた協働的な学びの促進

- ・学校や学科の横断的な学びの機会を設定
- ・生徒だけではなく教職員も垣根を超えた連携が必要

③産業教育の存続とPR

- ・既存の情報発信の強化とSNS等を活用した情報発信
- ・各教科の学びで「どのような力が身につく、どのような未来が拓けるか」を直感的に理解できるようなPRを実践
- ・中学生にとって学科の学びがイメージできる学科名であるか、カリキュラムを含め再検討することも必要